

つどう

まなぶ

むすぶ

福井市の公民館



第 10 号



福井市公民館一覧

ブロッ ク	No	館名	所在 地	電話番号	掲 載 号	ブロッ ク	No	館名	所在 地	電話番号	掲 載 号
あたご	1	木田	木田1丁目1401	36-0042	6号	光	28	安居	本堂町7-4	37-1234	
	2	豊	みのり3丁目106-8	34-0344			29	一光	下一光町6-5	37-0168	5号
	3	足羽	足羽2丁目12-31	35-0041	7号		30	殿下	風尾町1-13	97-2377	
	4	湊	学園1丁目4-8	22-0032			31	越廻	茱崎町1-68	89-2182	7号
不死鳥	5	春山	文京3丁目11-12	22-0057	2号	川 西	32	清水西	大森町20-43-1	98-4560	
	6	宝永	松本4丁目8-4	22-0036			33	清水東	三留町14-11-1	98-4510	8号
	7	順化	大手3丁目11-1	20-5458			34	清水南	風巻町21-17	98-4590	
	8	松本	文京1丁目29-1	22-0085	8号		35	清水北	グリーンハイツ5丁目131	98-5477	
	9	日之出	四ツ井1丁目7-24	54-0040	9号		36	大安寺	四十谷町5-20-1	59-1001	3号
	10	旭	手寄2丁目1-1	20-5364			37	国見	鮎川町195-7	88-2004	4号
	11	日新	文京5丁目1-8	21-7225	3号		38	鶴	砂子坂町5-58	83-0433	
みなみ	12	清明	下荒井町8-414	38-0043	10号	足 羽	39	棗	石橋町4-14	85-1495	10号
	13	東安居	飯塚町6-18	35-9566	4号		40	鷹巣	蓑町16-2-1	86-1001	
	14	社南	種池2丁目206	35-9559			41	本郷	荒谷町19-55	83-0582	6号
	15	社北	若杉4丁目308	35-9111	創刊号		42	宮ノ下	島山梨子町22-9	59-1150	
	16	社西	久喜津町65-23	34-7910	2号		43	酒生	荒木新保町37-9-5	41-2503	9号
	17	麻生津	浅水三ヶ町1-93	38-4383	6号		44	一乗	西新町1-31	43-2001	
	18	和田	御幸4丁目9-20	22-0038	8号		45	上文殊	北山町34-1	41-0516	3号
あずま	19	円山	北今泉町7-12	54-0048	5号	足羽	46	文殊	太田町4-11-2	38-0550	2号
	20	啓蒙	開発1丁目2105	54-0046	10号		47	六条	天王町43-4	41-1001	
	21	岡保	河水町10-13	54-2519	7号		48	東郷	東郷二ヶ町6-13-1	41-0306	5号
	22	東藤島	藤島町48-1-1	54-0039			49	美山	美山町2-12	90-7111	
	23	西藤島	三郎丸1丁目1410	22-0040	9号		50	中央	手寄1丁目4-1	20-5459	創刊号
九頭龍	24	中藤島	高木町64-11-4	54-0045							
	25	河合	川合鷺塚町9-18	55-0001							
	26	森田	下森田藤巻町2	56-0195	創刊号						
	27	明新	灯明寺町35-1-1	22-7880	4号						



《福井市の公民館に思う》



公民館と私

元生涯学習課長 氣谷 和彦

2005年4月に私は福井市教育委員会生涯学習課（当時）の課長を拝命しました。もとより浅学非才、そのうえ、それまでの仕事の上で教育委員会事務局には全く無縁でした。振り返りますと、我ながら頼りない課長であったと思わざるをえないのですが、その後二年間、各公民館の皆様には実に大変なお世話になったことは感謝に堪えません。

そのころは、2006年2月の福井市、清水町、美山町、越廻村の合併にむけて、公民館の配置や運営体制等についても事前調整が続けられて、私が課長を拝命した年は最終段階にありました。2006年度は、順化公民館と併設されていた中央公民館（当時は生涯学習課長が館長でした。）が、その講座等の事業拡充を図りながら現在の「アオッサ」の2007年4月完成と同時に同施設内に移設することとなり、職員配置等の諸課題を最終的に決定しなければならない時期もありました。さらに、当時は各地区において住民の皆様による様々な地域づくりの諸活動が非常に活発になってきていました。それは大変素晴らしいことなのですが、これに伴い活動拠点としての公民館の役割がますます大きくなってまいりました。そのことが館長・職員の皆様にとっては大きな負担となる面があり、このため、生涯学習課は負担軽減のための方策を打ち出す必要があったのです。

こうした課題は、既にそれまでの課長や課員によって着実に解決のための取組が進められてきたところでしたが、新米課長にとりましては実に大きな課題であり、当時はそれなりに悩んだり迷ったりの日々がありました。しかし、先輩方のアドバイスもあり、課員には引き続き熱心に取り組んでもらいましたし、また何よりも各地区の館長・職員の皆様方の全面的なご指導・ご協力をいただきました。私の力不足で成果としては不十分でしたが、皆様のご支援により私なりに精いっぱい頑張ることができたと考えております。

今、私の手元に『福井市公民館五十年誌（福井市公民館連絡協議会、2011年）』があります。各地区のさまざまな活動を見ることができます。当時も、館長さん、主事さん、管理人さんの献身的な活動を通して感じられる各地区の歴史の重さと、未来を創ろうとする熱意は、否応なく私どもを真剣にさせてくださったものと思っています。また、恥ずかしながら課長になって初めて知った「公民館の歌（自由の朝）」。あの敗戦の廃墟から立ち上がり、平和で自由な社会を築こうとする人々の決意や願いがその歌に込められていると思いました。人と人とが尊重し合い、手を携えてより良い未来を創るために公民館もまた大事な役割を担うのだという使命感、それもまた福井市の公民館活動にも引き継がれています。

2年間という短い期間でしたが、公民館の諸活動に直接触れさせていただき大変ありがとうございました。これからも、福井市の公民館は栄光ある伝統を引き継ぎ、学びたい・交流したいという人々の声に応える公民館であり続けていくでしょう。

公民館を訪ねて

笑顔でつながる We love 清明

— みんなが主役 —

清明公民館

1 清明地区の概要

福井市を中心部から南へ約5kmに位置し、城山（じょうやま）・引目山を背景に、朝六ツ川・江端川が流れ、緑豊かな田園風景が広がっている。一方、近くに大型ショッピングセンターや新興住宅地もあり、豊かな自然と調和しながら発展をとげている地区である。

この清明地区は昭和57年（1982年）に清明小学校が開校すると同時に誕生し、地区名の清明は、明治時代の荒井小学校の校訓「忠孝・清明」に由来している。歴史的遺産や伝統的なつくりの民家、土蔵なども多く保存されており、今も懐かしい景観を望みながら先人の足跡を学ぶことができる。

清明地区では、これまで公民館を拠点に各種団体が様々なまちづくりを展開してきた。地区住民から募集して道路に「あじさいロード」の愛称をつけたり、シンボルマークや清明の花（ベゴニア）・清明の歌を定めたりして、住民の愛郷心を育ててきた。また、城山の登山道や冒険の森を整備して、自然と共生できるエコタウンとしても確かな歩みを見せている。その他、地域の宝である歴史や文化の伝承にも努め、地域一丸となって、ふるさと清明のよさを発信し続けている。



【清明の守り神】

平成26年、まちづくり委員会主催の「清明ときめき夏祭り」でゆるきやらコンテストを行い、当時清明小6年の児童が考えた「清明の守り神 清たん」を選んだ。そ

れを公民館で少しあレンジし、清明の宝でできている「清たん」が誕生した。耳は大島山（大島町）、額には日吉神社の三日月池（江端町）、足は八幡神社の石すりあそびの石（下荒井町）、しっぽは白蛇神社の白蛇（杉谷町）、手には八房の梅（中荒井町）など、地区の宝が盛り込まれている。色は清明小のシンボルカラーである。また、多くの方に知ってもらおうと着ぐるみを手作りし、親しまれている。

平成30年1月1日現在、人口は7,837人、世帯数は3,001戸である。

2 地域をつなぎ「ふるさと清明のよさ」を発信！

（1）資源の循環型社会を目指す「夢ファーム会」

・・・環境学習から発展

平成23年、公民館の教育事業（環境学習）で、地域課題として資源の循環型社会を取りあげ、これを5ヶ年計画で進めるとした。そして、最終年度には地域住民の手で自主的な団体として活動できるよう企画した。

初年度には、福井市や地域のゴミの現状についての勉強会を開催した。その後、コンポストについての勉強会や公民館で生ごみの1次発酵を行った。また、毎週木曜日（朝7時から1時間程度）、会員が自主的に参加して地区内で畑を借りて野菜作りを行ったり、畑で生ごみの2次発酵や、野菜を販売したりして、徐々に、「地区の生ゴミ→有機肥料づくり→有機野菜づくり→安心・安全でおいしい野菜の消費→生ゴミ」という循環に発展していった。

そして、平成26年には「夢ファーム会」として独立した活動を行うようになった。会員には勉強会や作業に参加すると野菜と交換できるポイントカードを発行している。また、地区の環境意識の高揚を願い、収穫作業に子どもたちや地域の方の参加を募ったり、毎週採れた野菜を地区の方に販売したりする活動も行っている。今では、軽トラックで各自宅のコンポストの集配を行うことや、有機ボカシ「ゆうき」を使って地区的花壇や家庭菜園で有機栽培をするなど、清明地区に資源（生ゴミ）を循環するシステムが定着しつつある。

これからも清明地区のゴミの減少を図り、化学肥料ではなく有機肥料を使用することで、トンボ、魚、鳥などと共生した昔の美しい環境を取り戻せるよう、地区の方の参加を促し自治力を高める努力を継続したい。



【公民館での有機肥料作り】

(2) 地区の歴史を伝える御代参(ごだいさん)祭り ・・・郷土学習から発展

江戸時代に第12代福井藩主松平重富公が、江端町にある日吉神社の三日月池の水を飲み病が治ったお札に、同神社に徳川家紋入りの提灯を寄贈して参拝したのが始まりである。その後約100年間、家来が行列を成して神社に詣でており、この御代参行列は廃藩置県の前年(1871年)まで続いていた。

公民館の教育事業(郷土学習)で清明の宝「歴史遺産」について学んだ方々が、この御代参行列を時代行列として再現し地元の歴史を伝えることで、郷土愛の育成や地域づくりに繋げたいと考えた。そして、その旨をまちづくり委員会や地元の方々に伝え、平成26年、参勤交代を参考に「御代参祭り」として実施することができた。2回目となる平成29年には、新たにかけとして、各自治会にお願いして「時代村」を再現してもらった。また、地区の方が中心となり、図書館で借りた資料を参考に、段ボール、古着、プラスチックなどを使い、行列で身につける甲冑や衣装・小道具をみんなで話し合いながら手作りした。

祭りの当日は、それぞれの役になりきった大人から子どもまで 約70人が行列に参加し、重富公が贈った提灯を先頭に、公民館から日吉神社まで練り歩いた。馬も一役買い江戸時代の雰囲気を盛り上げ、多くの住民の参加を得ることができた。

今後は、足りない衣装や小物を増やすなどして、さらに盛り上げ、地域の方々や団体、子どもなどみんなが参加し楽しめる地域の祭りとして後世に継承していくたい。



【殿・姫・武士などに扮して練り歩いた御代参祭り】

(3) 子どもたちの夢を叶える「せいめい夢王国プロジェクト」・・・子どもたちが主役の青少年教育

公民館での青少年教育に表現活動を取り入れたいと考え、平成25年度から発表の場として「せいめい夢王国」を開催している。青少年の仲間づくりと夢あふれる公民館にすることが目的だが、子どもたちが公民

館活動を通して自分の夢を見つけることや、ボランティア活動を通して地域貢献のできる人材として育つことを願っている。

「せいめい夢王国」の行事は年3回ほどで、主な内容は、芸術表現活動(ライブ、演劇、映画や動画制作)や食育活動(カフェやパーティ)、地域事業参画(ときめき夏祭りやきらめき文化祭への参加)などである。企画や準備も含め、平成29年9月現在、約4年間で活動回数は110回を数え、これまでのべ1,096人の子どもたちが関わっている。公民館職員は、子どもたちの夢を叶える相談役として、創造性や自主性を尊重しながら、活動を通して仲間とともに作り上げていく喜びを体感できるよう支援をしている。



【「夢王国ハロウィン物語」と「夢王国クリスマス物語(絆バンド)】

今は、平日でも 20名以上の子どもたちが放課後、清明公民館に集まるようになった。地区の団体と連携して小学生の合宿通学なども実施しており、けんかや涙ありの中、日々、笑顔いっぱいの公民館である。

3 終わりに

清明公民館は、近年、子どもが集まる公民館として知られるようになり、アットホームでかけがえのない住民のオアシスになっている。また、各種団体や自主グループも公民館を拠点にパワフルに活動しており、このような活動の様子を公民館のホームページや公民館だより、Facebookなどで紹介することで、多くの方々につなげている。

また、これからも、地域の「歴史・自然・文化」を大切にし、人と人が笑顔でつながり、郷土愛に溢れ、明るく元気にいきいきと活動する清明公民館、清明地区であり続けるよう努めていきたい。

地区的歴史を伝え後世に残す活動、未来に向けての資源循環型社会をめざす活動、子どもの「夢王国」など、清明公民館が、地区の方が中心となり主体的・創造的に行動できるよう、人々をつなぎ支える役割を大きく担っていることを実感しました。

笑顔いっぱい、「清明愛」にあふれた地区として、ますます発展されますことを祈念します。

公民館を訪ねて

歴史と伝統を大切に、人を繋ぐまち「啓蒙」

— 過去から未来へ、笑顔あふれる地域の拠点 —

啓蒙公民館

1 啓蒙地区の概要

福井市中心部より北東へ約3kmのところに位置し国道8号線、416号線、市道東環状線、旧勝山街道が通っている。また、えちぜん鉄道勝山線が走り交通の便に恵まれた地域である。主要道路の沿線には大型量販店や商業・娯楽施設が多くあり、日常生活には大変便利な地区となっている。

旧勝山街道沿いには、こんもりと草木が茂る「丸山」(周囲500m、高さ56m)がある。また、清らかな流れの芝原用水が通り田畑が広がる等、まだまだ自然の風景も多く残されている。近年、大型マンションの進出等により若い世代の流入が多く、小学校児童数、未就学児数は年々増加傾向にある。

「啓蒙」の地名は小学校名に由来し、「童蒙の知能と徳を磨く、扉を開いて文明の光を入れる」という意味で啓蒙と名付けられたとされる。小学校の前庭には、九十九橋架替えの際の石の橋脚が立ち（当初2本を校門としていたが昭和30年に1本を市郷土歴史資料館に譲渡）、地区のシンボルとして親しまれている。

平成30年1月1日現在、人口は8,053人、世帯数は3,235戸である。

2 地域の歴史を学ぶ

～子ども劇「啓蒙キッズ」の取組～

平成16年より、啓蒙地区では茨城県結城市との交流事業を推進している。これまで「誇りと夢・わがまち創造事業」実行委員会を中心とした「芝原用水と秀康の歴史を紐解く交流事業」や、地区民による「結城市民劇」観賞、子ども親善大使の交流など、様々な交流活動に取り組んできた。

このような経緯の中で、地域住民や子どもたちに郷土の歴史にさらに関心を深めてもらおうというねらいから、平成23年に「福井学」推進事業として、子ども劇「啓蒙キッズ」を立ち上げた。地区的小学生をはじめ、脚本・監督・美術などもすべて地区住民が行い、毎年10月の地区文化祭で披露している。平成29年度は、10

月22日(日)に行われ、友好都市の結城市から33人の市民訪問団が訪れて同市のおはやし保存連合会の人たちが迫力ある「おはやし」を披露した。

ステージ発表の最後を飾った今回の子ども劇は「お城、完成！－秀康、三度の涙－」と題し、結城秀康の幼少時代から福井城が完成するまでを、啓蒙小の児童や地区住民が見事に演じた。

また、郷土学習として、劇に必要な鎧(よろい)・兜(かぶと)の制作も行っている。住民から提供された帶や着物などを材料として、鎧・兜を地区有志たちが苦労を重ねて完成させ劇に華を添えた。



3 地区住民の癒しの広場

～「啓蒙ふれあいわくわく花だん」の活動～

平成24年から、公民館前の休耕田を利用して花壇づくりを行っている。花壇名を地区住民から募集して「啓蒙ふれあいわくわく花だん」とし、毎年色とりどりの花が美しく咲いて住民の癒しの場となっている。

年2回の植え替え時には、市民憲章郷土美化部や花壇ボランティアが中心となり、子どもから大人まで多くの住民が参加している。今年は4月から地区住民と福井農林高校の生徒が協力して花壇の整備を行い、8月には、高校生の企画による「ハピネス花壇！完成を祝おう会」を開催した。

平成30年開催の福井しあわせ元気国体にむけて、約980m²の休耕田全面を花壇とし、ベゴニア・メランボ

ジュウム・サルビア・ジニアなど、30種類1万本の花々が住宅街を明るく彩った。みんなで作り上げた花壇は、平成29年度福井市花壇コンクールの大規模花壇部門で「はびりゅう賞」、福井県はびねす花壇コンクールで「優秀賞」を受賞した。今後も多くの皆様の協力を得て、地域住民の憩いの広場となるよう取組を続けていきたい。



4 地域で子どもを育てる体験事業

公民館が、地域と子どもを繋ぐ学びや体験の場となり、子どもたちの郷土愛を育んだり、異年齢での交流を深めたりすることができるよう、各種団体との連携のもと、様々な事業を実施している。

(1) 「豊作君」での稲作体験

毎年、青少年育成会が中心となって小学校児童が、「豊作君」と名付けられた田んぼで稲作体験を行っている。今年度から場所を公民館北側の田んぼに変更し、まず5月6日にJA職員や地区ボランティアの方の指導により「田植え」を行った。夏休みの8月23日には、子ども教室「案山子(かかし)づくりに挑戦！」を開催。4年生以上の児童約30名が、「豊作君」に立てる「かかし作り」を実施。そして、9月30日に「稻刈り体験」を行い、11月5日には、もちつき・模擬店・お化け屋敷などの楽しい企画で「収穫祭」を行った。年間を通して子どもたちが稲の育ちを学び、米作りの苦労と収穫の喜びを実体験できる有意義な事業となっている。



(2) 異年齢で楽しむ料理教室

地域内にある福井農林高校の生徒たちと子どもたちとの交流の場として、毎年「たのしい料理教室」を行っている。本年度は6月24日と11月25日に開催。子どもたちが農林高校に出かけ、生活科学科の生徒さんの指導で、地元で収穫した野菜などを材料にして楽しく調理を行った。

毎年子どもたちの参加申込みが多く、事後の振り返りには「お姉さんたちに教えてもらってとても楽しかった。」「とてもおいしかった。」と書いている。

地域性を生かした異年齢交流の場として、今後も農林高校の協力を得ながら取り組んでいきたい。



5 終わりに

様々な教育事業と各種団体への支援を通して地域づくりに取り組んでおり、受講生の多くは「楽しく生活に役立つ」「仲間が増え絆が深まった」などの思いで長年参加している。しかし、次代を担う若者や子育て世代の参加が少なく固定しないことが課題となっている。そのため、青年グループの育成や、講座・事業の開催時間や曜日の検討など、参加率を高めるための努力を行っている。

また、将来の啓蒙地区を担う小学生や中学生が気軽に公民館に足を運び、様々な学びや体験を通して地域愛や社会参加の意識を高められるよう、これからも事業の充実を図っていきたい。

公民館を拠点として、地区的各種団体が力強く連携して多くの事業が行われ、地域の一体感を強く感じます。特に子どもたちを「地域の宝」として育て、学校だけでは味わえない様々な体験や学びの場を提供している点がすばらしいと思います。今後も、ふれあい花壇の花のように明るく地域の輪が広がっていくことを願っています。

公民館を訪ねて

自然豊かな海と山、豊富な食 — すべての宝をつなぐ —

棗公民館

1 棗地区の概要

JR福井駅から北西へ18km、坂井市三国町に隣接する砂丘地帯に位置している。丹生山地を中心とした林業、三里浜砂丘地のらっきょう・すいか・大根・トマト、九頭竜川沖積地の稻作と、第一次産業が地区の主産業である。地元の棗小中学校では、50年続く「らっきょう切り」が老人クラブの指導を受けて毎年行われ、学校あげての伝統行事となっている。



緩衝緑地は、芝生広場がいくつも散在し、林間の遊歩道はすばらしい憩いのスポットになっている。

地域の中央に位置している朝倉山(標高約173m)は棗小中学校校歌にも歌われ、地域の宝として親しまれている。

戦国時代には朝倉義景の一乗谷奉行衆の一人、朝倉玄蕃助景連という武将が頂上に居館を築いて一向一揆に備えた。また、太平洋戦争中の昭和16年には防空監視哨が設けられて棗村や三国町の人々が海や空の監視を続けた。居館跡からは経筒が発見され、納められていた経巻は当時の仏教思想に関する貴重な資料として資料室に保管されている。平成30年1月1日現在、人口は1,642人、世帯数は570戸である。

2 地域のシンボル・心のふるさと朝倉山

(1) 朝倉山の整備活動

20~30年前まで、山頂は子どもたちの格好の遊び場であったが、その後は登山道の木々や雑草が伸び放題となり、いつしか訪れる人も少なくなった。ふるさとの風景を取り戻そうと、夢プラン実行委員会や壮年会によって、5年の年月をかけて登山道と山頂広場の整備を行った。平成15年には山頂に杉の間伐材を利用

した展望台を設置し、完成披露ハイキングで頂上を訪れた親子たちは展望台からの絶景に歓声を上げ、メッセージ付きの風船を飛ばして祝った。

平成25年には、展望台に鐘を取り付けて全国にその愛称を募集し、地元中学生の「棗鈴」(そうりん)が選ばれた。近年、展望台も老朽化し、平成30年には新たな材質による再建が計画されている。

そして、地域住民や多くの人々にいつまでも親しまれるよう、まちづくり団体の「自然王国なつめ委員会」では、毎年、春と秋の年2回、朝倉山整備事業として山頂付近の草刈りや登山道の整備、山頂の展望台の補修作業を行っている。



(2) 朝倉山で学ぼう

郷土学習として、例年10月に朝倉山登山を実施している。40名を超える参加者は、登山を通して地区的宝を再発見し、下山後には県農林総合事務所の方や、自然王国なつめ委員会の指導で間伐材の学習や、間伐材を使つた木工クラフト作りを実施している。



3 地域活性化にむけて

少子高齢化が進む地域の実情を踏まえて、これからは棗地区がますます活性化するよう、次代を担う中学生・高校生や、20代の若者たちの郷土愛を育んだり、女性たちが気軽に地域の行事等に携わることができるような組織づくりを行ったりなど、地域の担い手を増やしていくための様々な取組を行っている。

(1) 高1のつどい

若者事業として、棗地区に住む高校1年生を対象に学習会を実施している。平成27年11月には、市まちづくり国際課職員のファン・サンタマリア氏を講師に招き、福井市とフラトン市との交流などに関する講演会を行った。講演の後には、同窓会を兼ねた簡単な食事会を行い同じ地域に住む仲間としての交流を深めることができた。

平成28年12月には、医療短期大学の方の指導により乳児の人形を使った研修会を実施した。命の大切さや尊さを学ぶとともに、これまでの自分の成長を振り返るよい機会となつた。



また、毎年夏に実施される「なつめ祭り」には、中1と高1の生徒たちがボランティアとして参加し、お店の接客などの手伝いをしている。

(2) 25才のイルミネーションづくり

若者地域参画事業として、地区に住む25才の青年に呼びかけ、公民館に飾るクリスマスイルミネーションづくりを行っている。平成28年11月26日、忙しい仕事の合間にねって公民館に集まり、構想を考えた後に玄関周辺の飾り付けを行い、久しぶりに会う旧友と語らいながら楽しいひとときを過ごした。

自分たちの行動が地域に役立っているという意識が高まり、少人数の参加ではあるが、大変意義のある事業となっている。

(3) なつめ小町17(いいな)の誕生

「年齢を重ねて、地域の仲間を大事にしたい」「子や孫が暮らす棗を良くするお手伝いをしたい」といった思いをもつ、地区在住の55歳から74歳までの女性グループ、「なつめ小町17」が今年4月に誕生した。現在29名の会員で、ポーセラーツ体験(6月)、夏祭り模擬店での特産物販売(7月)、小町カフェ(10月)など、仲間づくりや地域行事への参加など、気軽に多彩な活動を展開している。女性パワーで、今後ますます棗地区が元気になることを期待している。



4 終わりに

これからも棗の宝でありシンボルである朝倉山をしっかりと守り続けていくとともに、朝倉山にまつわる様々な行事等を継続していく中で、地域住民の郷土愛を高めていきたい。

そして、年々少子高齢化が進み、地域の活性化が大きな課題となっているため、小・中学生や高校生など、地域の将来を担う若者たちが魅力を感じるような事業や、海山の豊かな自然を生かした活動を通して地域参画の意識を高めていきたいと考えている。また、今年新たに発足した女性グループ「なつめ小町 17」の生き生きとした活動にも大いに期待をしている。

今後も地域活性化のコーディネーターとして、地域住民のニーズを把握し、各種団体との連携をさらに強化して取り組んでいきたい。

公民館の2階資料室には、数々の貴重な資料が展示されており、地域の伝統と歴史をうかがい知ることができます。

地域のシンボルである朝倉山を大切に守り続けるとともに、若い世代や女性の地域参画意識を高めるための様々な取組が、今後の地域活性化に繋がっていくことを大いに期待しています。

福井市の公民館のあゆみ（その9）

13. 地域コミュニティ機能保持・活性化のための支援

- 平成20年 生涯学習課内において「今後の公民館のあり方」についての検討
- 平成22年 福井市が、「地域コミュニティ機能保持・活性化のための支援について」を作成
- 平成22年 生涯学習課が、生涯学習室に名称を変更

福井市の公民館は従来から自治会をはじめとする各種団体との関係を密にし、積極的に連携を図り、住民の理解を得ながら地域に密着した活動を展開してきた。しかし、地域における課題解決など、目的意識を持って結成されたはずの各種団体本来の存在意義が薄れ、事務局業務を公民館に依存するようになり、公民館の繁忙にもつながってきた。地区自治会連合会、公民館それぞれに課せられた業務が過大となってきており、それに対応する担い手が不足し、さらには課題や取組が複雑多岐になっているため、どうしても単体では解決できなくなってきたからである。

そのような中にあって、団体そのものの原点を見つめ直し、自分たちのことは自分たちでという住民自治の育成、さらに、公民館業務についての見直しを行うことが必要となってきた。公民館は、コーディネーター役として地域活動の支援及び各種団体等の自主活動への支援を行い、「自主自立」と「相互連携」を図ることにより、活動の更なる活発化と他の活動主体に刺激を与えるというねらいを踏まえ、以下のように見直しを行った。

公民館業務や、公民館職員の勤務体制等の見直し内容

- ①公民館業務のあり方
 - ・社会教育施設として社会教育事業を推進する。
 - ・地域の活動の支援及び連絡調整を行う。
- ②各種団体の自主活動支援業務の充実
- ③公民館職員の人事管理の強化
 - ・公民館職員の人材育成に努める。
 - ・公民館職員の委嘱について見直す。
- ④公民館職員の勤務体制の見直し
 - ・公民館長の勤務時間を週8時間から週16時間（4時間×3日+4時間）とし、それに伴い、報酬月額を見直す。
 - ・公民館主事の勤務時間を週30時間から週35時間（6時間×5日+5時間）とし、勤務時間帯を9時から18時の交代制とする。また、賃金は原則として同一任期中は同一賃金とする。
 - （ただし、主事の経歴、資格の有無を賃金に考慮する。また、満60歳到達以後は賃金を引き下げる。）
 - ・公民館主事の配置基準を3人体制の場合は、人口5,000人以上とする。
 - ・繁忙期における事務補佐員制度を廃止する。
- ⑤公民館運営審議会の選出方法の検討
 - ・地域コミュニティに関わる各種団体から広く委員を選出し、より民主的な公民館運営を図るため、構成員について検討する。

- 平成26年 広報誌「えんざん」が、全国公民館報コンクールで最優秀賞を受賞

「えんざん」は円山地区の広報委員会が年4回発行し、全戸配布するものである。広報委員会の目的は、地区の人・自然・歴史・文化・産業に光を当てて、住民への周知を図ること、そして三世代向けの内容にすることである。取材も世代を問わず、小学生が記者として地域の生活・歴史・祭り等の記事を取り上げ掲載したこともある。地区の多くの人々が紙面に登場することを、「えんざん」の編集方針としている。

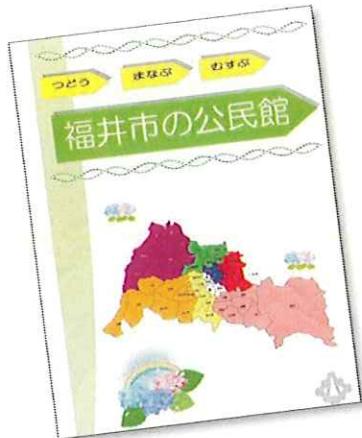
- 平成27年 安居公民館が優良公民館として、文部科学大臣より表彰

安居公民館は、人と自然が織りなす地域づくりに向けて、子どもたちの学びを支え、自らも学習する成人対象の「安居の里を守る会」事業を実践してきた。小学生対象の「A G O で遊ぼう！」の活動を指導・支援する事業、成人だけで実施する事業、また、学校や団体・関係機関と連携した事業を実施してきた。いずれも未更毛川（みさらげがわ）に生息するホタルを地域資源ととらえ、15年以上にわたって「企画シート」「ふりかえりシート」などを活用したPDCAサイクルによる改善を積み重ねてきたことで、着実な発展が認められる事業である。公民館主催事業から始まった環境講座が、市民団体（安居の里を守る会）活動へと発展し、指導助言に大学教授を迎えるなど、環境学習と郷土学習を融合した教育事業として展開してきた。

「福井市の公民館」 ～つどう まなぶ むすぶ～

創刊号からのバックナンバーを

福井市中央公民館ホームページでご覧いただけます。



<http://www1.fctv.ne.jp/~cyou-k/sub5.html>



中央公民館ホームページ

QR コード

第10号 掲載館

公民館名	住所	電話番号	メールアドレス
清明公民館	〒918-8017 福井市下荒井町8-414	(0776) 38-0043	seimei-k@mx1.fctv.ne.jp
啓蒙公民館	〒910-0842 福井市開発1丁目2105	(0776) 54-0046	keimou-k@mx1.fctv.ne.jp
棗公民館	〒910-3137 福井市石橋町4-14	(0776) 85-1495	natume-k@mx1.fctv.ne.jp

福井市の公民館 第10号 編集委員

中央公民館運営審議会委員 稲田 勝子・中嶋貴美江
生涯学習室 内田 友絵
社会教育指導員 嶋田 直美・田中 政広
中央公民館 平馬 吉隆・小清水直美
田村 榮子・塩崎めぐみ



公民館の歌 (自由の朝)

福井市の花 あじさい

楽譜に $\text{♩} = 104$

山口晋一 作詞
下総皖一 作曲

The musical score consists of four staves of music for voice and piano. The lyrics are written below each staff, corresponding to the notes. The first staff starts with '一、ハ いわの はるに あたらしく' and ends with 'く'. The second staff continues with '二、こ ころの はなの におやかに' and ends with 'に'. The third staff begins with '三、は たらく ものの やすらかに' and ends with 'に'. The fourth staff concludes with 'きょう どを おこらす よろこびも こう みんかんの'.

三.
働くものの 安らかに
郷土に生きる たのしきも
公民館の つどいから
希望を胸に 美しい
文化の泉 くみどろう
明日への力 そだてよう

二.
心の花の におやかに
郷土にひらく ゆかしきも
公民館の つどいから
希望を胸に 美しい
文化の泉 くみどろう
自由の朝を たたえよう

公民館の歌（自由の朝）
山口 晋一
下総 皖一 作詞
作曲

公民館の歌 自由の朝 について

昭和21年（1946年）7月、文部次官通牒により「公民館の設置」が奨励され、これを受け9月には、「公民館設置促進中央連盟」が官民の協力で結成されました。

この連盟と毎日新聞社が、文部省後援により実施したのが、公民館活動の理念を示す「公民館の歌」の歌詞の全国募集です。全国からの1,017件の応募から作家の川端康成、文部省（当時）、日本放送協会、毎日新聞社、日本レコード協会などの代表による審査団によって選ばれたのが、この歌詞です。

なお、作曲者の下総皖一は明道中学校、藤島高等学校の校歌を作曲しています。

福井市の公民館

監修 福井市生涯学習室
発行 平成30年2月
福井市中央公民館

〒910-0858
福井市手寄1丁目4-1
TEL 0776-20-5459
FAX 0776-20-1538
Eメール : cyuou-k@mx1.fctv.ne.jp
<http://www1.fctv.ne.jp/~cyuou-k>